

自由表面計算で多く用いられる Volume of Fluid method (VOF 法) では、計算要素ボリューム(有限体積法的な 離散要素“ボリューム”)内で 気体、液体の分率を 0 ~ 1 などの値で割り当てます。

FieldView で自由表面を表現する場合、データ読み込み後、

Iso-Surface パネルから

[Create] – [Define Iso-Function] – VOF 値にあたる変数選択

- [Calculate] - [Iso-Function] の Current 値を 0.5 に設定
- [Display Type: Smooth] – [Coloring: 水に相当する色選択]

という手順で表示できます。

次ページのように、壁面部分に対して、Coordinate Surface を表示し、

VOF 値に threshold clipping を行うことで、より見やすくなります。

### Coordinate Surface パネルから

[Create] – [Scalar Function] – VOF 値にあたる変数選択

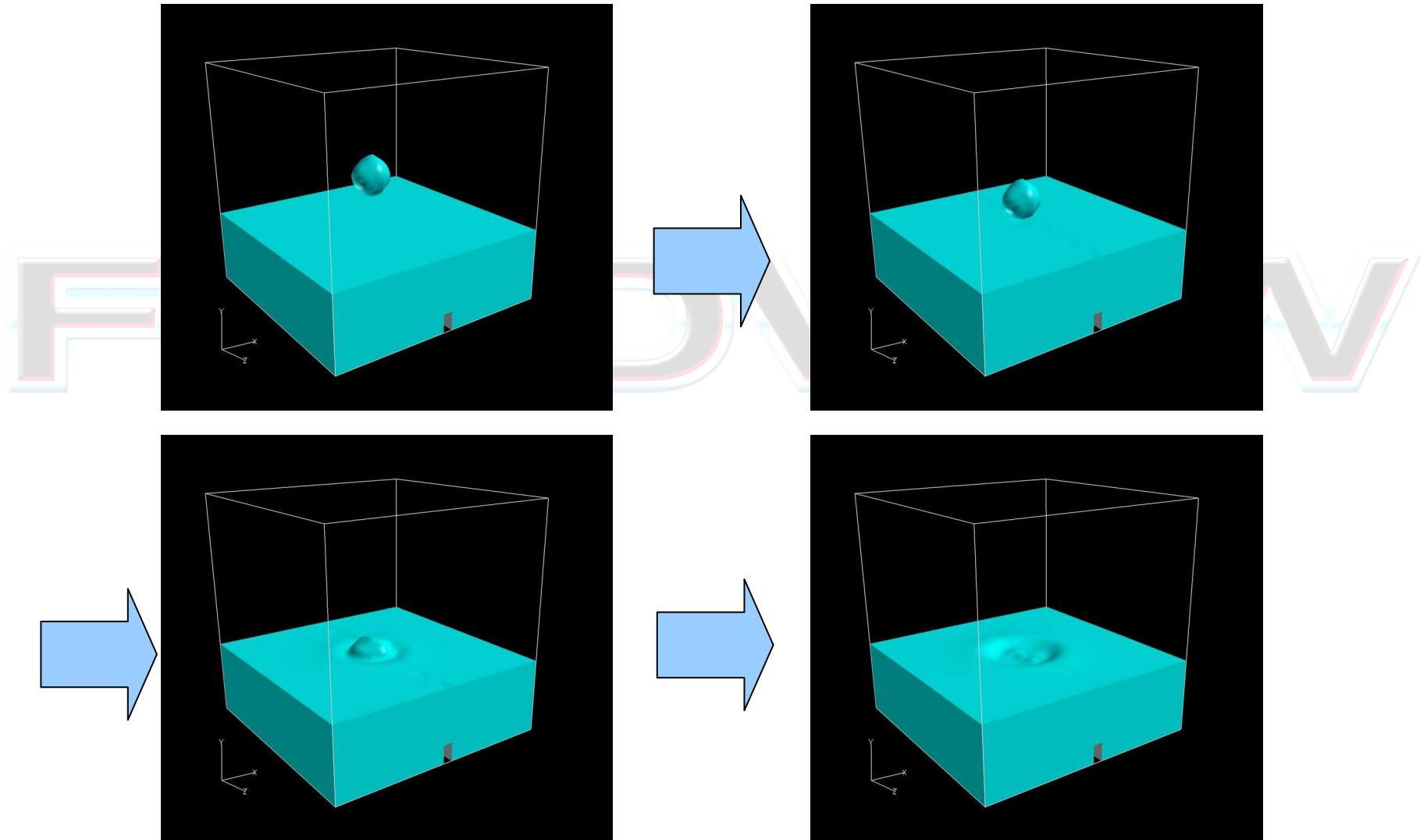
- [Calculate] - [Iso-Function] の Current 値を 0.5 に設定
- [Display Type: Smooth] – [Coloring: 水に相当する色選択]
- “subset” タブ [Threshold Function] – VOF 値にあたる変数選択
- Threshold 値を min 0.5, max 1 などに調整(計算条件によって変わります)
- [Threshold Clipping] にチェック

という手順で表示できます。上記で作成した Coordinate Surface を各解析領域境界に4つほど作るなどします。

次ページは、サンプル画像です。

# 自由表面結果の可視化法(事例:水滴の落下)

**FIELDVIEW**



# 自由表面結果の可視化法(事例:容器内の水面挙動)

**FIELDVIEW**

